

色 は 匂 へ ど

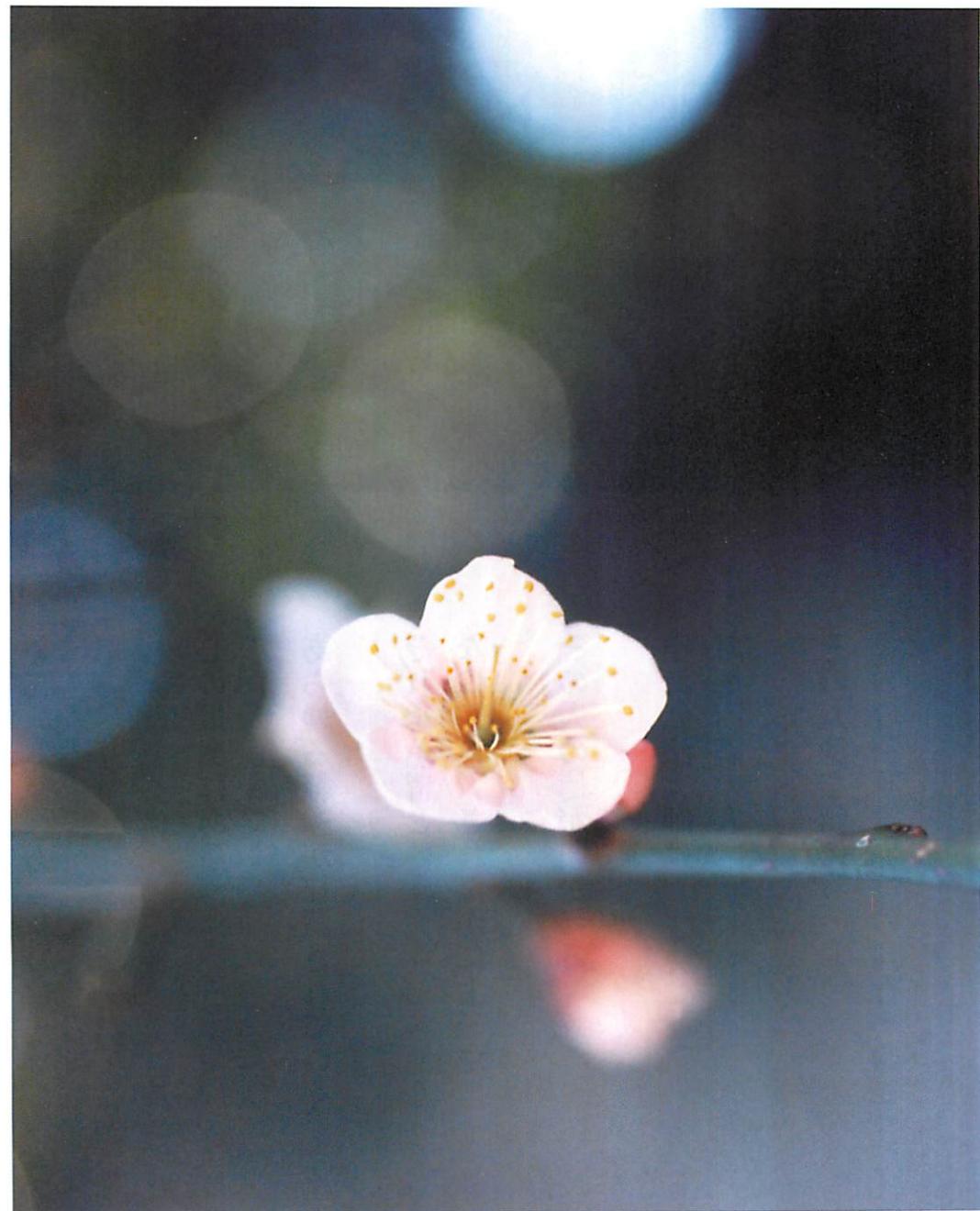


PHOTO SHU FUJIWARA

特集 白吉兆 湯木貞一翁の世界

特別寄稿 弘法大師の魅力
西宮 紘



薰習

心の最奥にある
アーラヤ識には
あらゆる経験が秘蔵されていく

それを薰習という

なにが薰習されたかによつて

その人の徳が開かれる

空海弘法大師は
万徳円満の人

その万徳を伝える

『書の曼荼羅世界』の刊行が始まった

白吉兆 湯木貞一翁の世界

3



日本の心と形



現代の道しるべ

11



13

弘法大師墨蹟聚集の全貌

書の曼荼羅世界発刊

9



空海の芸術論 西宮 純

15

新刊紹介

殿村藍田 菅原教夫 二玄社

殿村藍田
菅原教夫

16

知の創造
徳間書店

白吉兆 湯木貞一翁の世界

戦後、日本文化を創造的に再構築した数少ない一人が
湯木貞一翁。高い創造性と深い日本文化への造形が
一代で吉兆を築く。



東京本店の玄関。季節を大切にする吉兆ならではの正月かざり。



女将さんと一緒に大阪から来た玄関脇のお福さん
と、つねに湯が沸くへつつい。

貞一翁がもつとも心を入れた宝の間。庭の蹲の位置まで何日もかけて決めた。

釘隠にまで宝のモチーフが使われる。



湯木貞一翁の創造性の高さと日本文化への造形の深さを北川靖記氏と湯木俊治氏に語っていただく。北川さんは芸術面から新しい多くの作家を育て創造的に日本の芸術に取り組まれていて、湯木貞一翁との交流も深い。

湯木俊治氏は湯木貞一翁のお孫さんであり吉兆の新しい時代の担い手。

北川 まだ東京にお店を出される前だと思いますが、湯木さんが一人で私の店に見えました。殿村藍田先生の仮名を懸けてありました。

「これは珍しいですね、男の人ですね。女人ではないですね。こういう人がでてくることは、凄いことですね。」

来たばかりでまだ私も読み下してなかつたのですが、湯木さんが見えられてすつと読み下されて、正直驚きました。

凄い人が出てこられたなと思いましたね。夕方が夜でしたね。吉田五十八先生に店を建ててもらう前の店です。沢山飾る店ではなく、小さな空間で気に入ったものをかけるだけのね。

大阪の平野町の家にも何度もお邪魔しました。今は美術館になっていますが、昼ころ伺つて夕方まで時を過ごすこともしばしばでした。



次代の吉兆をになう湯木俊治氏。
新しい和食のあり方にも意欲的
に取り組まれている。

が、湯木さんは全く違いましたね。わび、さ
びに通じますね。

神仏への崇敬もひとたならぬものがあつ
て、正月、本店で春日宮曼荼羅を懸けて、店
の者みなにそれを見せ拝させる。ほかの家で
はあり得ない心ですね。

湯木 私は言葉でよりも、あちこちよく連れて
いかれて、自分の眼で見させられましたね。
それで感性を養うということでしょうか。と
くに寸法ということにはとりわけうるさかっ
たですね。

北川 あるとき乾山の短冊の良い皿があつて、
その間、寸法が気に入られて現代の方に作ら
せました。

同じものでは意味がないので織部で作らせ
て。数は多く作らずに。そこに盛る料理は何
が出来るか。どんな料理に合うか。

寸法との兼ね合いを大切にされていました

ね。ご主人も一番忙しい時代です。

湯木 祖父はよく間という事をいいました。料
理の間。道具の間。寸法の間。座敷のしつら
えの間。庭の間。

北川 そうですね。究極は間でしようね。日本
の美の姿は。それも足し算ではなく引き算で
す。いかによけいなものをそぎ落とすか。お
能もそうですね。

美術品や道具にしてもすべて使うということ
で求められていますね。

蒐集家の方はどうしても国宝が何点、重要
文化財が何点、重要美術品がいくつか。肩書
きから名のあるものから求められています。

湯木 祖父は、わびさびをとても大切にして
いました。わかる人にはわかりますが、わか
らない人には不可思議なことです。藁屋に
名馬をつなぐ趣というか。道具にその趣を発
見することが大事なんですね。そこに風流や
奥ゆかしさが生まれてくる。



庭の右手から茶室につながる

良い道具が入るとそれを自慢したり披露されたりする方がありますが、本当に控えめでいらした。

吉兆の本当のすごさは上方の文化を戦後の東京へもつてこられ、高い次元で完成された。あれだけの世界を構築した方はいないですね。学識をこえる、学者にもいない。料理はもちろん、床の間への造形まで。完成度を次々と高めていった。もともと完成度の高い上方文化をさらに高い次元に開かれました。



北川靖記氏。赤坂『貴多川』主人。
日本美術の造詣が深く、先年、銀座
『和光』で開かれた『心花の会』では
奈良、平安から現代までを網羅し
た画期的な美術展を成功させる。

古い道具を知る方はね、新しいものを評価しない方が多いんです。でも湯木さんは違いましたね。今のもの新しいものでも良いものはきちっと見いだされましたね。

魯山人とも親交があつて、魯山人も大変湯木さんのことを探していましてね。

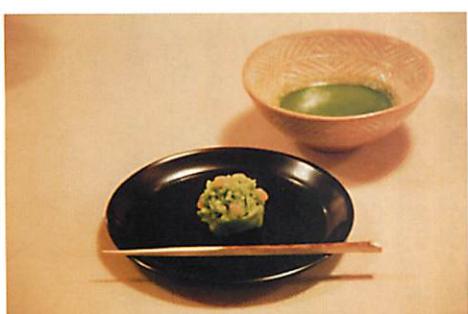
それはやはり湯木さんのお人柄もそうですが、やはり眼ですね。魯山人の作られるものの中からいい物を選ばれてましたね。お茶も早くからされていましたね。

湯木 三十六歳で表千家に入門しますね。それまでの料理屋はもちろん茶の湯の世界とのつき合いはあつたんですが、みな勝手口のつきあいだつたんですね。それが祖父は表から入門して、茶の湯を

学んでいます。ですから自分が客になり亭主になります。主客を経験して、そこから自分の料理の世界をひろげていったような気がします。

北川 料理の方で、はじめてでしようね。若いときに松平さんの茶会記を読まれて深く感動されて、ご自分の料理に対する思いと全く同じ事がそこに記されていて茶道に入門を志す。同時に料理は男子一生の生涯を懸ける仕事という自信を得られる。小林一三さんなどいいお仲間ができて。

松平不昧候の茶会記にふれ『心の窓が開き青い空が広がった気がした。料理は男子一生の仕事』 湯木貞一



吉兆の隠れた名物 当代ご主人自作の茶碗とお菓子

「富貴吉兆」鵬雲斎書



取の気性にも富んでいました。莫大海やフォアグラやキャビアを使われていますね。田舎に有るものも、きちっとつかいますね。田舎のわびたものにも憧れがあつたのです。

湯木美術館の図録にしてもこれほど簡潔ものは少ないです。見栄や売名的なものが一切無くて、今様のコレクターの図録とは全く異なります。

新しいものを見いだすのは、過去・現在・未来という展望がなければ出来ない。次を見据えてはじめて新しいものを見いだせる。

道具として集め、使いようを考えであつめていく。名をなした方は国宝がいくつ、重文がいくつといった総花的なコレクションになりがちですが。湯木さんは全く違いましたね。

湯木 私がもの心がついたころには、美術館の蔵品の收集がおわっていました。その收集はあくまで自分の眼や美意識にかなつたものということがだつたように思います。

思い出は、宝の間の蹲や木を入れるのに二日かかりで場所を決めていく。けして妥協しないですし、あきらめない。しかしまた、人との縁を大事にしていて、人の話をよく聞く人でした。

北川 いつも上の次元への挑戦というか試みがあつた。それが求道的ではなく楽しみながら日本文化を手の中に取り込まれました。

部屋に通るといい気持ちを持たせてくれる。緊張感があり、空気が違う。共通して言えることは、冬は冬。春は春の感覚、それを受け取らざる者。各分野でそれを拝見できることはしあわせですね。

神仏をとても大切にされていました。東大寺のお水取りのときは必ず水屋へ寄進をする。けして宣伝的な事でなくね。粹でスマートですね。

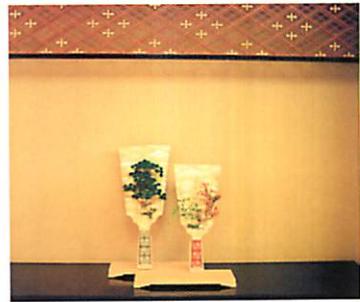
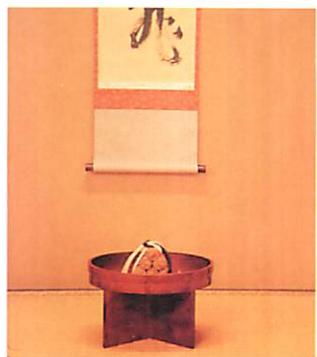
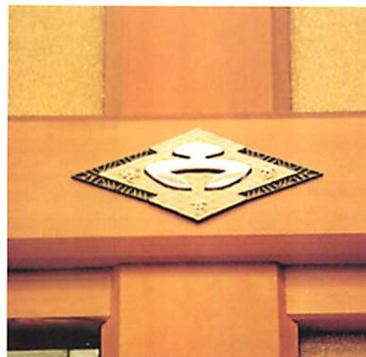
風流の茶の心があつてほしい。

風流。茶と風流。真心の結集を茶を通して学べば奥ゆかしくなる。名馬を藁屋につなぐ趣。それを道具に発見する力も必要。

これでもかこれでもかではおもしろくない。季節の風情を大切にして座敷をしつらえて、器の取り合わせ、季節を五感で楽しめる世界。

世界の名物日本料理。そういう料理人になりたい。

湯木貞一



『弘法大師墨蹟聚集』の全貌 二

ぼくせき しゅうじゅう

書聖弘法大師の 国宝十二点 重要文化財八点を含む
すべての真蹟を原寸カラーで七帙二十二巻に網羅する、
空前絶後の大事業。

ついに始まつた刊行を祝つて、祝宴が開かれた。舞台には
全二十二巻が広げられ、そのスケールの壮大さと、今ここで書
かれたかと思うほどの墨の美しさに一同感嘆した。

第一回配本第一帙は

第一巻 国宝 大日經 一卷

第二巻 国宝 聾瞽指帰 上巻

第三巻 国宝 聰瞽指帰 下巻 高野山

「この書を前にすると云うことは、私がお大師様と同じ場に立てる
ということですね。」

「今まで部分しか拝見できませんでしたが、全部が拝見できるこ
とはすごいですね。」

「お大師様に連なるすべての者が備えれば、二十一世紀への最高
の贈り物になりますね。」

弘法大師は東大寺で不二の教えに出会うことを誓願し、奈良久
米寺の塔で大日經を感得する。その眞実の教えを求めて万里の
波涛を越え唐に渡る。

その奈良時代の大日經が西大寺には七巻現在まで大切に伝えら
れている。

全二十二巻の墨蹟聚集。その美しさに関係者も感嘆。



来年の夏の前には第二回配本で三十帖策子。弘法大師の唐
の都、西安での文字が甦る。

高野山 大谷純仁 総務部長
新居宗務総長の祝辞を手に



東寺 砂原秀遍 代表役員



西大寺 佐伯龍幸 宗務総長



京都ブライトンホテルのロビーに展示された全二十二巻



なごやかな祝宴

「弘法大師墨蹟聚集 —書の曼荼羅世界—」のお申込み・お問合せは、
電話 03-3705-7238 または FAX 03-3703-4979 へどうぞ。

日本のこころと形

春の七草

若菜摘みとして

能や歌にも歌われている

春の七草は人日じんじつの節句とも

いわれ 人の邪氣を七草で

はらうとも言われています

旧暦の正月には七草が大地から

芽吹きます

七草を摘んで

邪氣をはらい

良き一年を迎えましょう





せり なづな ごぎょう はこべら ほとけのざ すずな すずしろ

現代の道しるべ

という美しい一章がある。

徳は得なりという。

年々梅が早く咲くようになつてきている。
梅の香りは遠くからでも、風に乗り豊かに
拡がり季節の移ろいを感じさせる。

最古の經典に法句經（ダンマパダ）
真理の花束といわれる美しい詩で織られ
た經典がある。

その華の章に

華の香は

風にさからいては行かず

栴檀せんたんも多揭羅たがらも

茉莉迦まりかもまたしかり

されど



風にさからいつつもゆく

善人の香りは

よ
善き士の徳は

すべての方に薰る

積み重ねられた徳がやがてその人に大きな果
報をもたらす。

親切も仏教語でかつては深切・心切とも書いた。密接に親しいことで、悟りに最も近づいた境地が親切だ。

お金を出せばすべてが手に入るという幻想を信じている現代人には徳の意味が見えないかもしない。徳はお金を出して手に入れる物ではない。

心をこめて何かしたときふつと心に積まれていくもの。

たとえば混んだ電車で席をゆづる。人が落とし物をしたときに声をかけて上げる。道を尋ねられて親切に教えたり、人の相談に親身に応じて感謝されたりすることも小さな徳を積む機会になる。歳とともに頼まれることが多くなつて困るという人もいるが、それもその人の徳の力によるところが多い。小さな一つ一つの親切の積み重ねが大きな徳を拡げていく。

德	德	芙	華
人	香	蓉	香
遍	逆	梅	不
聞	風	檀	逆
香	薰	香	風



The perfume of flowers blows not against the wind,

nor does the fragrance of sandal-wood, Tagara, and jasmine.

The fragrance of the virtuous man pervades every direction.

弘法大師の芸術論二

精神文化史 研究家 西宮 紘

『文鏡秘府論』南巻「論文意」における「神をもつて会すべし」という一文を念頭において、かつて私が経験した、ほぼそれに相当するのではないかと思われる能楽体験をご紹介しておこう。無論、「能」についてはズブの素人であるから、用語等の読みちがいに関する厳密さの要求は平にご容赦願おう。

それは、私が初めて「能」を鑑賞した折に起った特異な出来事である。「能」は観世流奥義の秘曲『鶴鳴小町』、シテは観世流後見役杉浦義朗、観世流においては、ひとたびこのシテを演ずる者はその後の生命がいくばくもない、という不思議なジンクスをもつ「能」であった。さて、その体験というのは、時

あたかも舞台の上のシテの動きがまことに微々たるものとなり、大革と鼓の打々発止がいつ果てるどして私も延々と続くさなかに起つた一種の靈的体験とも言うべきものであつた。

初めのうちは、確かに舞台の上のシテの姿が見えていた。……羽毛のようにフワリと軽やかに立つてゐるシテの白い足袋と薄く透き通る鸞茶色の衣……そしてくつきり彫りの立つ、不思議なほど生氣を帯びた肉色の面が……。ところが、不意に暗転……そう、暗転といつてよろしいだろう。いきなり光さだかならぬ薄明の中に、私が放り出されてしまつたのである。

道の左脇を幅三メートルほどの川らしい暗い流れがあり、その向こう岸は陰鬱な灌木の茂みとも見え、あとは闇に覆われてただ前方の宙空に微かな明るみを湛えた、まことにたよりないこと甚だしい陰惨な風景である。静寂が行き渡つていると言つても、大革と鼓の応酬は極めて明瞭に、かえつて一段と冴え渡り、のみならずそのリズムはある種の快さを伴つて私は自身を振りびき、その故にか、私は自分自身の肉体感覚を喪失し、宇宙を浮遊しているかのような状態を味わつていた。いかなる事態にたちいたつたのかと訝りながら前方を見やると、何か異様なもの

ば、私はどこか知らないが一本の道……それもずっと先の方で二股に分かれた道に立つてるのである。ユラリユラリと音曲のリズムに合わせ、右や左に向きを変え、道の上方を、あるいは川の上を道の分岐点に向けてゆつくり遊泳していくのである。さらに驚いたことに、その奇妙な発光体と同じようになん自身さえもが、それに合わせるようにユラリユラリと浮遊しているのである。

その時、ある直感があつた。その発光体は私自身であると言うこと、そしてそれを見てゐる視覚それが自体となつた私を。同時にそれが私自身でないことも……。

殿村藍田 菅原教夫

二玄社

「殿村藍田の書は極めて伝統的に見えたが、しかし、彼の書の真意は、伝統の中に収まることではなく、『古いものをいつそう磨く』ことで、その奥に新しい空間を開くことに向けられていた。」本文より

殿村藍田氏は日本書道界の第一人者だけではなく中国においても最も高い評価を受け、上海美術館での大きな展覧会も大成功をおさめているが、その人となりを知るものは少ない。今様の作家と違い自らを語り、自らの作品を述べることがほとんどない。

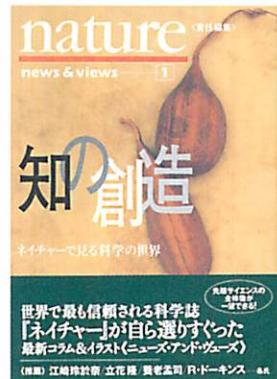
世界で最も権威ある科学誌『ネイチャーチャー』。科学者なら誰でも自分が発見を真っ先に投稿する。そしてここに掲載されたことがその発見の正しさを証明する。しかし専門に偏るため一般の読者のみならず科学者も自分の分野以外の研究が見えなくなつてきている。

この『ネイチャーチャー・知の創造』は『ニュース&ビューズ』のコラム『ニュース&ビューズ』をまとめたものだ。『ニュース&

その作品以外は寡黙な殿村藍田氏を見事に一本の糸で織りなした本書は、殿村氏のスケールの大きさと豊かな感性を余すところなく伝えていて、しかも読みやすい。また「書風」や「いき」にまでおよぶ。

「ズ」は最新の科学ニュースを匿名で紹介し解説するコラムで、執筆者は自分の専門については書くことは許さない。そして一般的の読者にわかるように書くことが要求されている。

自由が丘オフィシャルガイドブック
自由が丘商店街振興組合編



知の創造

徳間書店

科学一般トピックス
バイオテクノロジー医学
生物
生物の進化
エレクトロニクスと技術
物理マテリアル
数学

天体と宇宙
地球・環境

緑の革命の再生（農業）
ガン化へのチェックポイント（医学）

などの興味深い数々のテーマで占められている。

今活気のある自由が丘を紹介するガイドブック。地域の商店が独自に編集したものだが、見やすくわかりやすい。ジャンルごとでもエリアごとにでも調べられ、インデックスもあるのでとにかく便利。写真も全店掲載されているので店の雰囲気も良くわかる。

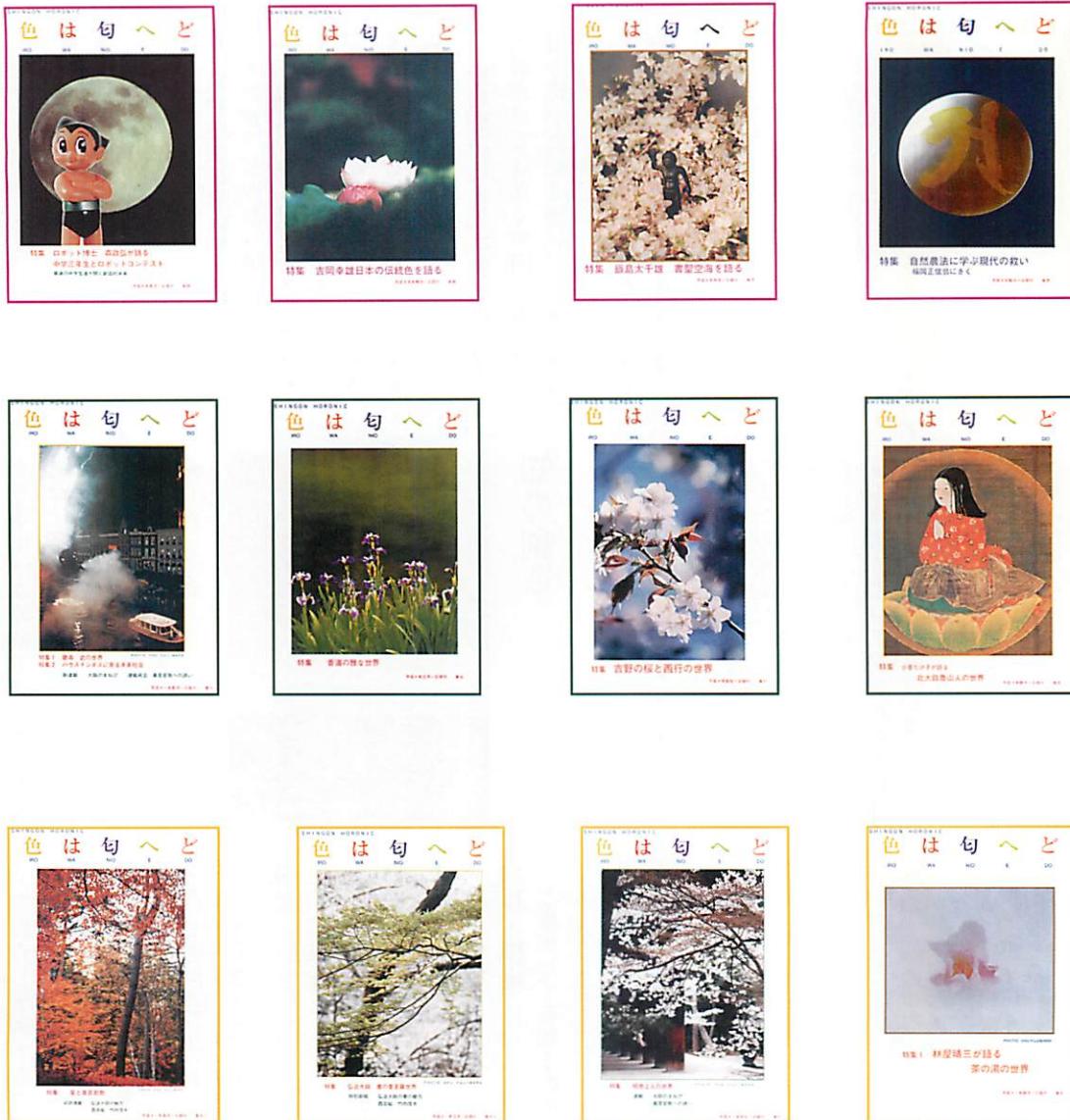


殿村藍田
菅原教夫

殿村藍田氏は日本書道界の第一人者だけではなく中国においても最も高い評価を受け、上海美術館での大きな展覧会も大成功をおさめているが、その人となりを知るものは少ない。今様の作家と違い自らを語り、自らの作品を述べることがほとんどない。

この「ネイチャーチャー・知の創造」は『ニュース&ビューズ』のコラム『ニュース&ビューズ』をまとめたものだ。『ニュース&

「色は匂へど」バックナンバー



学力の低下が深刻らしい。漢字の読みえない大学生や、生物の基礎知識がない医学部生、足し算引き算ができる中学生。前号の『現代の道しるべ』の丁家の過去帳を書いた方は小学校しか出ていない。文書も素晴らしいが、小さな過去帳の墨書きも細字まで美しく書き上げられている。ご本人の努力もあると思うが、昔の小学校の先生は立派な人が多かったという話を聞いたことがある。

人工衛星でソビエトに先を越されたアメリカのケネディー大統領は、教育改革を断行した。江戸時代まで識字率は世界でも有数だった日本の今の識字率はどうぐらいだろう。

弘法大師は誰でも学べる学校を創り、先生にも生徒にも食を給して、食べることの心配なく学問に専念させた。儒教、道教、仏教医学、天文、すべての学問を総合的に学べる場であった。弘法大師はその学校の式に

「一つの味では美膳は調わず、一つの音では名曲を奏ることはできない。」と述べてる。

めのない大学生や、生物の基礎知識がない医学部生、足し算引き算ができる中学生。前号の『現代の道しるべ』の丁家の過去帳を書いた方は小学校しか出ていない。文書も素晴らしいが、小さな過去帳の墨書きも細字まで美しく書き上げられている。ご本人の努力もあると思うが、昔の小学校の先生は立派な人が多かったという話を聞いたことがある。

弘法大師は誰でも学べる学校を創り、先生にも生徒にも食を給して、食べることの心配なく学問に専念させた。儒教、道教、仏教医学、天文、すべての学問を総合的に学べる場であった。弘法大師はその学校の式に

「一つの味では美膳は調わず、一つの音では名曲を奏することはできない。」と述べてる。

企業メセナが定着してきた。毎年予算化する企業も増えてきた。しかしその割合は音楽が約五割近く、絵画が三割五分、演劇が一割、伝統芸術が七分と一割に満たない。

メセナは文化芸術への支援で宣伝活動とは全く異なる、どちらかというと見返りを求めてはいけない陰徳を積むものだと思う。しかしそれでは予算が通らないのか、すでに名の通つたところへ支援するケースが多いようだ。アメリカには5%クラブというシステムがあり利益の5%までは非課税になり企業メセナを税制で支援している。たしか個人は3%が非課税になつたと思う。

弘法大師墨蹟聚集も三年の歳月を経てようやく刊行にこぎついたが、心有る企業や会社が寄贈者となつて国内はもとより世界中の学校や図書館に納められたらどんなに未来に貢献できるだろう。これを読んだ方々はぜひ知り合いの方に勧めてほしい。自分の母校や地域の図書館に寄贈できればお大師さまの教えが限りなく広がるはずだ。

エコファンデが好調らしい。環境対策をしつかりする企業や、環境関連商品を扱う会社のファンデ。環境問題はこうしたコ

マーシャルベースで進まないと未来がないが、はたして間に合うか。

夏の終わりからプリウスに乗っている。

エコカーということで、ホンダのインサイトと両方考えたが、二人乗りのインサイトに較べて汎用性が良いのでプリウスに決めた。

レジエンドと乗ってきたがトヨタに乗るのは今回はじめて。ガソリンと電池の両方を使うハイブリットカーということで走行性能とか乗り心地とかには実は全く期待していないかった。しかし実際に乗つてみると使いやすく取り回しも良い。足回りもとても良くて箱根の峠でもドイツの車に負けない良さがある。そして運転席からの視界が驚くほど広いので小さな車に乗つている感じがしないので、長距離でも疲れない。

ブレークの利きが悪く感じる以外は実に良くできている。渋滞時の燃費がもっと良くなればさらにいいと思う。

これから二〇〇〇年にかけて高知県で、最後は徳島県で開かれる。ぜひこの素晴らしい展覧会を一人でも多くの人に見ていただきたい。

ブンして日本一といえる質と量の展覧会でも一ヶ月で十二万人ぐらいの入場者だったことを考えるとそのすごさがわかる。なによりも四国らしいのは来場者の多くが一点の宝物を手を合わせ合掌して觀てていることだ。



高知会場 高知県立美術館
1999年12月14日～2000年1月26日
徳島会場 徳島郷土文化会館
2000年2月2日～2000年2月26日

四国で弘法大師国宝展が開かれている。四国を一県ずつまわり最後は高知が会場になる。愛媛ではわずか一ヶ月で十二万人を超える入場者があり、さすがに四国はお大師さまの土地だ。東京芸大の美術館がオー



福寿草

PHOTO SHU FUJIWARA

次回発行は3月1日予定

特集 神仏融合の日本

Editor RYUJU ABE Art Director and Photographer/SHU FUJIWARA Special Contributors/RYUICHI ABE KO FUJIWARA
Editorial Staff/ MIWA SAMURO KOJI TOKUMARU REIKO ONUKI KAZUFUMI MOTOYAMA
HOMEPAGE DESIGN MASAAKI OKA HIROYUKI HANAWA Making Mechanic SANMITUSHA Printing KORINKAKU
PUBLISHER RYUBUN ABE EDITOR RYUJU ABE EDITORIAL OFFICE MANGANJI SHUGEISHUCHIN S.H.C

〒158-0082 東京都世田谷区等々力3-15-1 電話 03-3705-1622 ファクシミリ 03-3703-4979
Shingon Horonic Irowanoedo 第一巻第十三号 平成十二年睦月一日発行